

市政に対する 一般質問

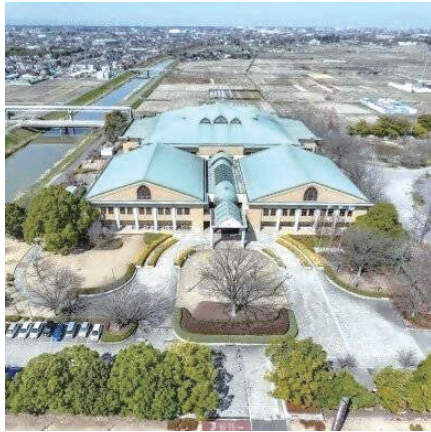
9月定例会では20人の議員が市政全般について質問を行いました。
※一般質問は、議案に関係なく、市の行政事務について市長および執行機関に質問することで、越谷市議会では1人1時間を目途に行われます。



アリーナに関する「市民の声」について

自由民主党越谷市議団 立澤 貴明 議員

問 仮に総合体育館を一部改修することによってBプレミアム基準に適合することが可能になるのであれば、南越谷、レイクタウンのみならず、出羽新駅直結アリーナや道の駅など、夢のある話も出てくる。検討すべき課題であると思うが、市長の考えは。
市長 総合体育館の改修は可能性として無い訳ではない。どの程度できるのかを考えてみる。行政として、さまざまなことを検討するのは当たり前である。



現在の越谷市立総合体育館



市立病院の建物の老朽化や修繕状況と建て替えについて

日本共産党越谷市議団 工藤 秀次 議員

問 大学との連携も含めて、さまざまな手法を検討して、建て替えを早急に行っていく必要がある。市長の考えは。
市長 老朽化については理解している。市立病院の在り方の検討を内部で始めており、他の病院との連携についても、先進的な事例を調査していきたい。その中で、今後の地域医療圏における果たすべき役割を明確にし、必要とされる機能や規模、整備手法などを整理し、検討していきたい。



平和都市宣言について

日本共産党越谷市議団 山田 大助 議員

問 来年が被爆80年となることから、非核宣言をする考えは。また平和都市宣言をしていることを示す横断幕を作成し、8月や平和展の際に掲示をする考えは。
市長 世界の人々が核の脅威に脅かされていることは重く受け止める。平和都市宣言に「核の恐ろしさ」という一文が含まれている。核廃絶は世界中の願いだが、多くの意見があり、まとめるのは難しい。横断幕は周知啓発に有効と考えるため、検討する。



しらこぼと運動公園第2競技場の人工芝化について

こしがや無所属の会 斎藤 豪人 議員

問 市民の健康増進と生涯スポーツに寄与するといった観点からも、整備に向けて取り組むべきだと考えるが、現在の課題と状況は。
市長 グラウンドの温度上昇を抑え、環境にも配慮することができ、さらには費用も抑えられる施工法がある。今後は、しらこぼと運動公園第2競技場の人工芝化について関係各課と調整し、協議のうえ、検討を進めていく。



市内農家との連携による新たな返礼品開発について

日本共産党越谷市議団 大和田 哲 議員

問 ふるさと納税増収に向け、返礼品の開発の際、本市の農業支援にもつながる付加価値の高い有機農産物、希少野菜、田植えなどの農業体験を返礼品としてはどうか。
市長 越谷市農業協同組合と連携し「越谷ふるさと米」、市内農家と連携し「いちご狩り招待券」などを返礼品としている。付加価値のある農産物を取りそろえることで市のPRにつながる。農業体験も首都圏に近い立地にあるので、大変有効と考える。



災害時の避難所生活について

こしがや無所属の会 菊地 貴光 議員

問 トレーラーハウス等の活用は。
市長 トレーラーハウス等は迅速な移動も可能であり、仮設住宅としての利用が終わった後も別の場所で繰り返し使用可能な点など有効と考えている。民間事業者と協定を締結し準備できるようにしている。
問 下水道が損傷するとトイレは流せないが、避難所における排泄物の回収は。
市長 能登地震でも排泄物の回収に課題があった。適切に維持管理していきたい。



トレーラーハウスの室内の様子



移動販売による、買い物支援の検討状況について

公明党越谷市議団 和泉田 宏幸 議員

問 高齢者などの買い物弱者に対する買い物支援、移動販売の検討は、どの程度進んでいるか。
市長 市民一人一人が食料にアクセスでき、健康な食生活を享受できるようにすることは、大変重要である。自治会や関係団体等への説明を行うとともに、地区住民のニーズを踏まえ年内には、約50か所の販売場所を決定し、来年2月頃の移動販売の運行開始に向けて準備を進めていく。



自校式給食について

越谷市民ネットワーク 大田 ちひろ 議員

問 災害時の避難所機能強化や地場野菜使用率向上、出来立てが食べられるなど自校式給食の魅力が再認識されている。今後、老朽化した給食センターの建て替え時、自校式を含め検討してはどうか。
教育長 今後学校施設の大規模改修や、あるいは学校再編についても検討する必要がある。給食の在り方についてセンター方式との組み合わせも視野に入れて自校給食や親子方式について調査研究する。



日常生活用具の給付のさらなる充実について

立憲民主党越谷市議団 小口 高寛 議員

問 在宅で障がいのある方または難病患者等の方に対しての紙おむつの給付基準額を引き上げる考えは。また、給付対象者を知的障がい児・者にも拡充する考えは。
市長 物の値段が上昇していることもあり基準額を超える方もいるので丁寧に調査し、給付対象者を知的障がい児・者にも拡充することについては他市の取り組み状況も調査のうえ、基準額の見直しと併せ検討していく。



オーガニックビレッジ宣言について

越谷市民ネットワーク 清水 泉 議員

問 オーガニックビレッジ宣言に向けた取り組み予定は。
市長 本市では化学肥料や農薬を使用しないなど、有機農業に取り組む農業者は少ない状況となっているが独自に有機農業の普及に取り組む意欲的な農業者もいる。今後はこのような農業者と連携・協力を図り、有機農業などの環境への負荷を低減した営農活動を推進し、国の動向や先進事例などについて調査・検討していく。